

高齢者施設の方と交流しよう

教育課程上の位置付 生活単元学習

実施概要

当校は、初めて当施設を訪問し、3階のレクリエーションルームで交流しました。4人の生徒による学校紹介の後、生徒全員で合奏しながら「少年時代」を歌い、「エーデルワイス」を生徒4名がリコーダーで合奏しました。生徒の演奏による曲当てクイズを4曲行い、利用者は全曲回答しました。全員での「もみじ」の合唱の後、アンコールに応じて、生徒が演奏をしました。

最後に、生徒が制作したプレゼントを贈呈して、会を終了しました。

活動参加者内訳 当校 生徒…10人 担当教員…8人
交流先 利用者…24人 担当職員…5人

交通手段 当校とろうけんくがやまとの距離はおよそ100m
徒歩で訪問 約5分



生徒の奏でる音楽が心に響きます

活動報告 実施日：11月20日(火)

始めに、生徒4人が1人ずつ、学校の特色を紹介し、続いて「少年時代」を生徒が合奏しながら合唱しました。「エーデルワイス」では、生徒4人がリコーダーで合奏し、利用者は聞き入っていました。

生徒の演奏による曲当てクイズでは、生徒がキーボードで前奏部を弾き、利用者が正解すると、生徒はその曲を通して弾き、利用者はこやかに歌を口ずさんでいました。

全員で合唱する「もみじ」では、利用者は手拍子を楽しそうに歌っていました。アンコールの声に、生徒はキーボード演奏や指揮、タンバリン等で応え、利用者は大きな拍手を送りました。

最後に、生徒が利用者にプレゼントを手渡して握手をすると、涙ぐむ利用者もいました。

当日のスケジュール

- 13:30 学校、施設、SSC、都教委4者事前打合せ(施設1階会議室)
- 13:45 生徒と引率教員、施設に到着。
(手の消毒とトイレの後、1階奥のエレベーターで3階に移動)
- 14:00 開会 はじめの言葉(生徒) 生徒より学校紹介
- 14:05 合唱、合奏(生徒が前に立ち発表、利用者も歌唱)
・「少年時代」(4分)、「エーデルワイス」(3分)
- 14:13 生徒の演奏による曲当てクイズ
(生徒が秋に関わる曲を演奏し、利用者が回答)
- 14:17 「もみじ」(生徒、利用者全員で合唱)
- 14:20 プレゼント(石けん、コースター)贈呈
(プレゼントの説明後、生徒が利用者一人一人に贈呈)
- 14:30 閉会 終わりの言葉(生徒)、事務長感想、副校長挨拶
終了後、後片付け
- 14:35 引率教員と生徒、学校に向け出発

■活動のために準備したもの

- 司会進行、学校紹介の原稿 プログラム
- コースター等のプレゼント

■工夫したところ

- 司会進行、学校紹介の原稿を堂々と読むことができるよう練習をしました。
- 利用者の方の状況、生徒たちの視覚障害に配慮し、交流内容や選曲をしました。
- 利用者の方と、より密接な交流となるよう、クイズやプレゼントの贈呈を計画しました。
- 生徒それぞれの個性や能力が発揮できる役割分担を考えました。

■実施にあたって注意したところ

- 合唱・合奏曲の発表のための練習を重ね、視覚に障害のある生徒が見通しをもち交流会に参加できるように配慮しました。
- 交流会だけの活動にならないように、単元として計画し、生徒の達成感や、自己肯定感が高まるようにしました。

■良かったと思うところ

- 生徒たちは、利用者の方から直接感謝の言葉を掛けていただき、人の役にたつ喜びを実感することができました。
- クイズと一緒に歌うなど、利用者の方も参加できる形をとったことにより、盛り上がりました。

■今後に向けての学校からの抱負

- 年度によって生徒の実態は様々ですが、生徒が自立と社会参加に向けて、自己肯定感を高められる貴重な経験をさせていただいたので、内容を工夫しながら今後も継続していきたいです。
- 今回の経験を今後の指導に関連付けて行っていきたいです。

当校は視覚障害教育部門(幼稚部・小学部・中学部)と知的障害教育部門(小学部・中学部)を併置する特別支援学校です。「『確かさ(専門性)』と『愛情(教育愛)』あふれる学校」を目指す学校として、両部門の専門性を発揮し一人一人の子供たちの「生きる力」を育む教育に取り組んでいます。社会貢献活動は、特別活動でエコキャップ集めや、生活単元学習で屋上で育てた花鉢を商店街に届ける、などの活動をしています。

活動の感想

生徒・教員の感想

生徒

- 利用者の方が、手を握って涙を流しながら「よかったです」「来てくれてありがとう」と言ってくださり、びっくりしたし、とてもうれしかったです。練習してきた学校紹介や合唱、リコーダーの演奏が、とてもうまくできました。
- クイズと「少年時代」と「もみじ」の演奏を頑張りました。
- 緊張したけれど、うまくできて、喜んでもらえてよかったです。

教員

- 今回交流会を実施した生徒の中には、このような行事に携わったことのない生徒もあり、緊張したり不安になったりしている生徒もいました。しかし、利用者や施設の方が温かく迎えてくださり、楽しみながら交流することができました。貴重な経験をさせていただき、とても感謝しています。初めての試みで、連携や準備に時間を要した場面があったので、今後も継続できるのであれば今回の経験を生かしてスムーズに実施していきたいです。

施設の参加利用者・担当者の感想

利用者

- 楽しかったです。また、来てください。私たちの励みになります。
- こういうことがあるとは思いませんでした。感激して涙が出ました。私の孫と同じ世代の子供たちとふれあうことができよかったです。
- 一生懸命練習されたのが伝わってきます。皆さん、素晴らしいです。

事務長

- 当施設としては、今回、初めて特別支援学校の生徒さんと交流をさせていただきました。生徒の皆さんが生き生きとした表情で演奏と合唱されていたことが印象的でした。この日のために色々練習されていたことがうかがえ、当施設の利用者も生徒の皆さんの姿にとっても感動されておりました。当施設はリハビリ施設であるため、他者との感情が伴う交流はとても利用者の刺激になります。これを機に交流を継続して行きたいです。

■実施までの経過 ※(コ)：コーディネーター

- 6月22日 (コ)、当校を訪問。知的障害教育部門副校長と主幹教諭に事業説明
- 7月10日 (コ)、当校を訪問。視覚障害教育部門副校長と主幹教諭と実施内容打合せ
- 7月20日 (コ)、施設を訪問。事業を説明し、事務長快諾
- 9月6日 (コ)、副校長、主幹教諭で施設を訪問。施設事務長、施設職員2名と打合せ。その後、学校に移動して副校長、主幹教諭と打合せ
- 11月5日 (コ)、主幹教諭、担当教員で施設を訪問。事務長と場所の確認など詳細を打合せ。その後、電話、メールにて詳細を打合せ



さて、この曲の題名は何でしょう?



このコースターは私たちが作りました

交流先



社会福祉法人 康和会
**介護老人保健施設
ろうけんくがやま**
住 所：東京都世田谷区北烏山2-14-20

■施設概要

- 入所サービス(短期入所療養介護含む) 定員60名
- 通所リハビリテーション 定員35名
- 訪問リハビリテーション